

個人質問(3月5日) 西山あさみ議員

名古屋市職員の 長時間労働へらせ

年1000時間以上残業している市職員16人(2017年)

西山あさみ議員は5日名古屋市本会議で、「市職員の長時間労働是正」と、「性暴力防止に向けた取り組み」を提案しました。

長時間残業が常態化

「名古屋市では2016年、年残業時間が1,000時間を超える市職員が16人もいます。これは東日本大震災の対応に追われ残業時間上位6人を消防局職員が占めた2011年よりも多い」と西山議員は指摘。総務局長は「臨時的突発的な業務に適切に対応するために(残業は)一定は発生する」と応じましたが、西山議員の示したデータは名古屋市では長時間残業が常態化していることを示しています。

市職員を増やせ

西山議員は「市職員の異常な長時間労働の原因は市が続けてきた人員削減の方針にある。少なくとも600時間以上残業する職員がいる職場には人員を増やすべき」と求めました。「長時間労働を抑制するよう

今後も継続して指導したい」と述べるにとどまる総務局長に対し、西山議員は「人事院の報告でも『業務合理化等を進めてもなお恒常的に長時間の超過勤務を行わざるを得ない場合には、業務量に応じた要員が確保される必要がある』とあり、公務員も人員増に舵をきる時が来ている」とただしました。



		2011年	2016年
年1,000時間以上残業している名古屋市職員数		6人	16人
年残業時間数(時間) の上位五人の	1位	1,279	1,326
	2位	1,180	1,254
	3位	1,119	1,252
	4位	1,110	1,248
	5位	1,040	1,223
		∴	∴

※残業過労死ラインは月80時間(年換算では960時間)

性暴力防止へ正しい理解を リーフレットでの啓発を提案

西山議員は「4人に1人が『2人で車に乗る』だけで性行為の同意があると考えている」などのNHKのアンケートを引用し「抵抗しない被害者が悪い」という社会的偏見を指摘。他都市のリーフレットを示した



北海道の性暴力防止リーフレット

「性暴力防止へ正しい理解を」西山議員が被害公表。西山あさみ議員は「性暴力防止に向けた市の取り組みを質問の中で、自身も過去に被害に遭った」と告白した。その上で「正しい理解を広げ、防止に取り組んでほしい」と求めた。

西山議員の質問を取り上げた中日新聞 2018年3月6日

から「被害者も加害者も生み出さないよう、性暴力防止に向けた理解促進のためのグッズなどを作成し学校等で活用すべき」と求めました。

総務局長は「あらゆる暴力は重大な人権侵害」「これまでに作成したハンドブック等を活用する」と述べるに留まるのに対し、西山議員は自身の性暴力被害を告発。被害者に責任を押しつける社会的偏見により誰にも相談できず、被害を内面化し続ける被害者の苦悩を説明しました。「一人の被害者を見逃すことが新たな被害者を生み出す悪循環に繋がる。ジェンダー意識の一環という位置づけでなく、性暴力とは何か。正しい理解を広げて性暴力の防止に取り組んでほしい」と訴えました。